



「多久から発信！SDGs」

「さとうきび畑の唄」を見て

私は授業で、沖縄戦を題材にした「さとうきび畑の唄」という映画を見ました。この映画を見て沖縄戦がどのような戦争だったのか、どれだけ悲惨なものだったのかを改めて知ることができました。性別や年齢に関係なく、何の罪もない人たちが戦争で犠牲になる様子や、人を殺したくないのに兵士にならなければならぬ人たちの姿を見て、とても辛く、戦争はするべきではないと改めて思いました。また、今の私たちと同年代の子どもが、無理やり戦争に行かされていたと知って、胸が苦しくなりました。そんなことは絶対にあってはならないし、こういう歴史を繰り返してはいけません。

今の日本では、いじめや殺人、自殺が起きたというニュースが後を絶ちません。また、世界には紛争が起きている国もあります。これらを無くすためにも、一人ひとりが人に親切にすることや、いじめに加担しないことなど、私たちにできることがたくさんあります。そして、今、当たり前にご飯を食べられることや、平和に暮らせていることに感謝したいと思います。平和学習で戦争について学んだことや感じたことを忘れずに日々生きていきたいです。



東原庁舎東部校 8年1組

堤 ひなの

連載

多久市の指定文化財(5)

少貳政資・資元の墓

「市重要文化財」

多久町一七六番地(専称寺)

戦国武将少貳氏の先祖、武藤資元は建久7年(1196)に源頼朝から太宰府の太宰少貳と肥前・筑前・豊前の守護を任じられ、西北九州の政治、軍事をにぎりました。その後、役職名の少貳を姓とし、永禄2年(1559)龍造寺隆信にほろぼされるまで15代続きました。戦国期に周防国(現山口県)の大内氏に侵襲され、たが、13代政資のとき勝利し、太宰府の支配を一時回復しました。しかし再び攻められ肥前に追われました。弟千葉胤資の小城晴気城が

.....

ら多久梶井城へとのがれた政資は、多久宗時(前多久氏14代)を頼りますが断られ、明応6年(1497)専称寺の境内で自害しました。政資の子14代資元も同じく多久で没し、専称寺墓地に葬られ、今も父子の墓のこりまます。中世の史実を伝える貴重な資料として昭和55年に指定されました。境内には他に政資にまつわる伝説を伝える「核割れ梅」の紅梅の木と、腰かけたという血曳ぎの石、寺内に父子の位牌があります。

第千葉胤資の小城晴気城が

(教育振興課)



▶少貳政資・資元の墓



▶核割れ梅・血曳ぎの石

市民文芸

短歌 《麦の芽短歌会 互選》

- ◆天山へ 孫を背負いて登りし日
沓くになりて恋いおり老いて
川浪 信子
- ◆運命の人だと思った君を見て
時が止まった苦難が消えた
野崎 隆幸
- ◆人間を 弾丸の一つと思いいる
それならば先ずあなたが出でよ
尾形 節子
- ◆白秋の 生家たずねてなつかしく
文芸部での 高校の時
梶原恵美子
- ◆梅雨晴れの 空の青さが 清々し
わが心にも うつつる 青空
浦野 嘉恵

俳句 《大石ひろ女選》

- ◆泰山木の 花の白さと 風の色
富樫 明美
- ◆風入るる 席より埋まる 夏法座
武富 律子
- ◆新緑の 眩しき朝の 退院日
本村 則子
- ◆柿若葉 自転車で行く 部活の子
三塩不二子
- ◆眠られぬ 夜を親しく 夏の虫
大石ひろ女

川柳 《多久川柳会 互選》

- ◆夕立ちと 競演読経 涼々と
小副川ヨシエ
- ◆三次会 涼で決めます 冷し麦
大谷 和
- ◆屈辱の 日が忘れ得ぬ 記念日
西山 残月
- ◆叱つても 涼しい顔で 澄ましてる
田中 正春
- ◆記念品 何の記念か 忘れてる
井上 東子